



2017年全国協同集会 in 滋賀が、2日間延べ約2000人の参加で無事に開催されました。共同代表8人、実行委員会27団体・452個人、後援団体に滋賀県含むすべての滋賀県内の市町村に加えマスコミや大学など13団体と、過去最大となる地域の人たちを中心とした実行委員会で準備を重ね、またその過程でも多くの方々と協同を深めることができたのではないのでしょうか。当日朝まで降り続いていた雨も開演直前にはあがり、太陽がさんさんと降り注ぐ琵琶湖の湖畔で、人々の生活を何百年と支えてきた雄大な湖に思いを馳せながら、集会を開くことができました。

記念講演の京都大学総長山極壽一先生のお話は、事前の打ち合わせで古村理事長らと懇談した際のお話やその際に紹介されて購読した「都市と野生の思考」(鷺田清一共著)に基づき、人間がなぜいま顔と顔の見える関係を基本とした協同を大事にしなくてはならないかを丁寧に話してくださいました。80分間はあっという間に過ぎて時間が足りないと感じるほどで、会場のみなさんも同様に感じたのか、準備した本はサイン付きということもあり長蛇の列となり10分足らずで完売

しました。山極先生は、休憩時間にサインしたあとも会場に戻り、パネルディスカッションを聞いてくださり、地域での実際の協同の取り組みや、引っ張っていくリーダー像ではなく、但馬の上村さんのような頼りなくみんなで支えるような新たなリーダーにいたく感心され、パネルまで聞けて非常に良かったと言って帰られました。

2日目の龍谷大学での20分科会と沖島を含む3つの移動分科会は160名を超えるパネラーとコーディネーターとコメンテーターで構成され、全体会及び23分科会の資料集を作成するのは相当大変でありましたが、それだけ中身の濃い議論が各分科会でできたようです。終了後、参加者が興奮して内容を話してくれたり、自分の地域でもぜひ実践してみたいと笑顔で話して帰っていく姿が印象的でした。

連合会に異動して最初の大きな全国集会でしたが、この規模のイベントを開催するのにこれだけ多くのスタッフと準備がいることを改めて実感することができました。本当にみなさんお疲れ様でした。協同集会が滋賀で継続・発展するよう支援できればと思います。